



感染症発生動向調査速報

2025年 第33週

令和7年8月11日～令和7年8月17日

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報 開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	28w	29w	30w	31w	32w	33w
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	0	0	0	0	0	0.33
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	0	0.67	0.67	1.33	1.67	6.33
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	1	0.5	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0	0	0	0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0.5	0.5	0	0	2	0.50
	感染性胃腸炎	-	20	12	0	0	0	0	0	0.00
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	手足口病	-	5	2	0	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	1	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	3.5	2	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	0	0	0	0	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI)*	-	-	-	4.33	11.67	3.33	5.67	6.33	10.00

* 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

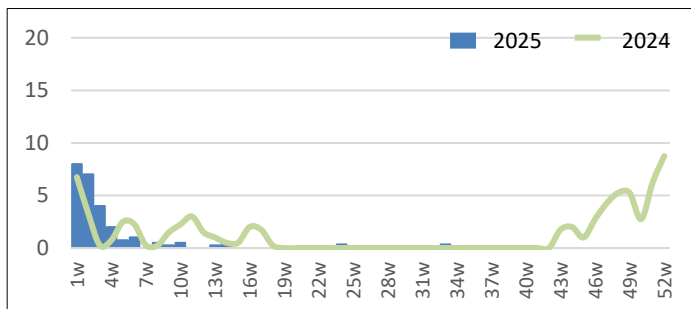


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

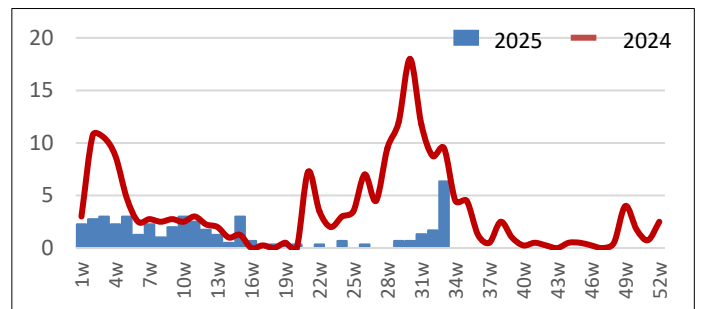


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈百日咳〉

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。
潜伏期は通常5から10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2から3月かかることもあります。乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。
定期の予防接種により発生数は激減していますが、全国的に報告数が増加傾向にあり、管内でも増加しています。
感染経路は飛沫感染です。咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。

〈ダニに咬まれないためのチェック項目〉

- ☐ 雑木林・草むら・畑等に入る場合は、長袖・ズボン、足を覆う靴、帽子、手袋、首にタオルを巻くなどして、肌の露出を避けている。
- ☐ 防虫スプレーを使用している。
- ☐ 屋外活動後は、家に入る前に外で服をはたいている。
- ☐ 屋外活動後は、なるべく早く入浴し、ダニに咬まれていないか(特に、首、耳、腋の下、足の付け根、手首、膝の裏など)確認している。